

三河 アララギ

2020年 7月 文月 ふみづき

七 月 号

第 六 十 七 卷 第 七 号

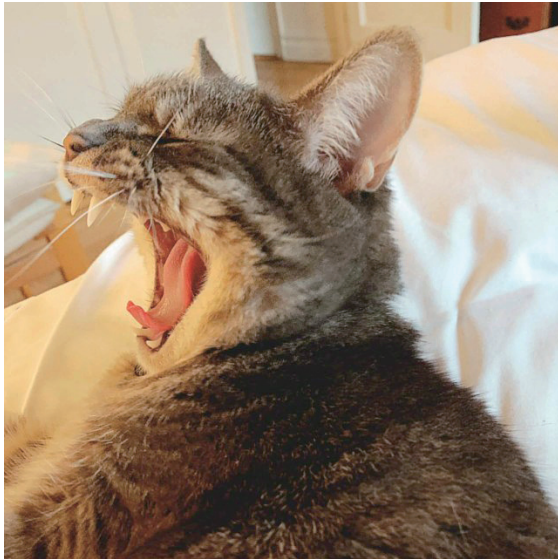


ニューヨーク日記(165) <http://blueshoe.copetin.com/>

BlueCat, Shoe Lady

ALWAYS ALWAYS HOME

Blue Shoe Diaries



自粛中の今一人（一匹）になれる時間を失ってしまったシャーロック、嬉しいんだかうざがってるんだかよく分からない！人間としてはお出かけしない楽しみなんだが。今のところ側でこんな感じに欠伸するぐらいだから喜んでるのかなあ？基本寂しがり屋さんだもんね。

I wonder. Is Sherlock the kind of cat that is loving having his human around all the time now that we are all social distancing? Or is he finding this an invasion to his space and annoying? I'm not entirely sure... but this is the best part of staying at home for me, the human. The fact that he still comes nap by (on?) me makes me want to think he's loving it.

目次

第六十七卷第七号(通卷七九九号)

表紙・新玉葱

今泉 由利(1)

ニューヨーク日記(165)

Blue Stone(2)

アカンサスの徑

御津 磯夫(4)

ははきくさ

大須賀寿恵(5)

歌集「續々草々」

今泉 米子(6)

ははきくさ

河原 静誠(7)

なんじやもんじや

岡本八千代(8)

何も変はらず

弓谷 久子(10)

細胞

今泉 由利(12)

案じつつ聞く

安藤 和代(14)

上の句下の句

清澤 範子(15)

光が見える

伊藤 忠男(16)

天に届ける

矢崎 直人(17)

こいのぼり

森岡 陽子(18)

母の日

白井 信昭(19)

電子書籍

杉浦恵美子(20)

花満ち薫る

阿部 淑子(21)

竹の子

山口千恵子(22)

目に見えぬモノ

夏目 勝弘(23)

『こよせ』 いーはとぶ

吉見 幸子(24)

牧原 正枝(24)

石田 文子(24)

森 厚子(24)

山崎 俊子(24)

三田美奈子(25)

水野 絹子(25)

牧原 規恵(25)

稲吉 友江(25)

鈴木美耶子(25)

現代学生百人一首 東洋大学

磯野 瑠子(26)

近藤 杏美(26)

菅沼 麻沙(26)

東條 華楓(26)

秋山 柚紗(27)

横山 未咲(27)

小島 和(27)

笹本 隆志(27)

森岡 陽子(28)

高橋 育郎(30)

重野 善恵(32)

山迫 京子(32)

松本 周二(32)

山元 正規(33)

田中 清秀(33)

浜田 紀政(33)

森岡 陽子(34)

植村 公女(34)

今泉 如雲(34)

木村 歩歩(35)

今泉 由利(35)

杉浦 弘(35)

田中 清秀(36)

かさね吟行会 『酔いの徒然』(99)

楽しい時間(92)

絹の話(116)

本田カイロプラクティック先生の春夏秋冬

『江上浩二の独り言』

漢詩研修(四十五)

『献身』

偶感

仏像彫刻(六)

見る(一)

『水魚』のことから(234) 岡本八千代(57)

編集室だより(二〇二〇年五月)

今泉 由利(58)

野菜・果物・まんだら(29) (59)

『三河アララギ』について (60)

アカンサスの徑

御津磯夫

宵に見て一夜のねむりはやく覚め曉に見るその一つ星

わが命絶ゆるまぎはを幾度か意識の外に感じてゐたり

三百の鉢の木草をおきて来ぬわれの一つの命生きむため

異国にて生れ育ちてゆく孫がはじめてわれに笑みたるあはれ

アルゼンチンよりわれの病を見に来つつ吾が娘も幼き孫もたくまし

生きをりて仰臥五ヶ月にならなむとす老いの諦念といへど狂ほし

幾百の窓にむかひて苦しみ臥す老いて病まひて生きゐるしるし

一年の終りゆく日の夕空にむかひてゐたり痛み忘れず

わが家いでて国の宝の千手佛またしたひゆく信ならずとも

萌ゆるもの萌えたたしめて朝々の歩みに足のぬるるかまはず

ははぎくれ

大須賀寿恵

三十六年度医療費補助の事務終へて背表紙作れば両手に余る

かびくさき臭ひこもれる第一書庫に三十年度経理の帳簿をさがす

二度三度水くぐらせしスーツ着て秋の旅路に今発たむとす

住宅街の東三事務所の吾が部屋にカナリヤの声も折々きこゆ

背表紙も新らしきもの古きものならべる書庫に頁繰りゐる

朝より降り出でし雨に胸痛む肋とりて既に十年を経し

夾竹桃の幹に添ひ立ち伸び切りし百合は白きを今朝開きたり

農閑期の人等にまじり美容院にパーマかけをり吾が青白き顔

吾が爪に白斑あれば幸の近く来らむと易者言ひたる

事務室に置く観葉植物のとりどりに集まりふえて今二十鉢

歌集 「續々草々」

今 泉 米 子

盆栽といふには遠し拾ひしを植ゑて灌そそげり父の代より
くれなるの蓄ことごと雫して老いし紅梅にこの朝の雨
かりそめの病なれども翁には父の代よりの處方のくすり
移し植ゑて後の月日を待つならず心とどまる自生ひとりえの松に
ことごとく朱き珠実の啄ついでまれ青木の垣のしづかになりぬ
ほのぼのと色差す辛夷の花弁をはやも小鳥のついでみしあと
こと更に母の待ちましし山櫻花枝張れり母は杳けし
ただ一夜荒びし汐の嵐にてわが沙羅の木はこの春萌えず
ときいろのいろさす白き舌状花立ちそろひたり鶉草といふ
ただ一羽佇ちて久しき白鷺は降おりし一羽と共に舞ひたつ

ははぎくち

河原静誠

浄願寺の御堂に満つる園児の声壇上の仏よいつくしみませ

園児等と別れてここに百余日ギブスベッドにわれは臥しをり

病室の窓流れゆく雲ひとつ夕日かがやく弥陀の浄土よ

幼児劇試みし今日第一番に発言せしは常にものいはぬ児

焼跡に再建の木槌うち振りて地祭りをせり五月雨の中

夜の更けて眠れぬままに床に坐り父母恩重経をくりかへし読む

園児等の午睡の笑顔みまもりて今日の保育の半すぎたる

迎え火の火影ゆれゐる軒先に師の三年の回向供養す

腸管の切除をうけて百余日園児とたわむるに今またうづく

一時三十分の脳波検査を待つ吾は秒針の動きに眼はなたず

「なんじゃもんじゃ」

蒲郡 岡本八千代

台所の東窓少こし開けたれば光忠寺さまのしろじろの花

ヒトツバタゴ「なんじゃもんじゃ」と言ふを知るたゞそれだけに愉しからずや

ヒトツバタゴ「あんにゃもんじゃ」とも言ふも知る今日もその木の花遠白し

今日もまたなんじゃもんじゃの白花の見ゆる台所に朝餉の支度

窓を開けて朝餉の支度してをれば自づと見ゆるなんじゃもんじゃの花

コロナ故の外出自肅の禁解かれ久しぶりに仰ぐ夕暮の空

夕暮の空の高きに低きにもトンビ舞ひ舞ふ彼れらも嬉しか

わが目の前黒蝶一つ素通りす行方は追はずもはや姿無し

玄関の入口に伸びし草の葉は宵待草の咲く葉かもしれず

だんだんとわれの独りの営みに馴れつつすぎて更け夜の読書

黙々と絵を描きてゐし夫つまのことその後ろ影うしすがた今日も思ひ出す

三十六巻の茂吉全集が吾にあるをその驚きよその嬉しさよ

茂吉全集第一巻を手にとれば本の平ひらつつめる絹布あかの朱色

背文字は銀色なれど輝きて「斉藤茂吉」は金色のごとし

いまさらに茂吉全集三十六巻何巻まで読めるか老い人われよ

何も変はらず

豊川 弓谷 久子

こもりゐるくらしの中に名ばかりの黄金週間今日も青空

人も車もまばらな東京ニュースうつるコロナ騒ぎの何処まで続く

一足早き真夏の暑さ訪れてゴールデンウィーク過ぎてゆきたり

無事なれと心に祈る東京と名古屋に住みゐる我が親族等

ひっそりと家にこもりゐる我がくらし何も変はらず今日も暮れゆく

手作りのマスク届きぬ真似出来ぬ手先器用の君の手作り

早朝より声のやかまし軒下に今年も燕が巣づくりしたり

餌を待つ子燕は五羽巢立つまで目守りやらむ一期一会か

子のパジャマ二枚縫いたり我があとも着られるようにと一人思ひつつ

野花咲く小さき原と藪陰の細き草道今日も歩きぬ

木立中廃屋一軒見付けたり昼仄暗き木陰の中に

若き日に読みふけりたるミステリー横溝正史の世界が浮ぶ

コキアの苗鉢に植えゆくくれないに色づく秋を胸に描きて

残る花惜しみつつ今日は片付けむ半年咲きつぎしパンジーの花

とりどりに紫陽花の花咲き初める梅雨も近し水無月となる

細胞

東京 今泉 由利

ホモ・サピエンス・現生人の私の37兆個の細胞健やか

百二十年前の日付けにて父誕生日ほのぼのとしてほのぼのと

南伊豆より届きたり太ネギ空豆木くらげとおかひじき新玉葱新ジャガイモと

味付は何も要らないこのままをオカヒジキシャキシャキ木くらげコリコリ

もう一度生きゆくよふな心地して今までの日々振りかえりをり

思ひ出す思ひ出すこと多くして忘れ得ぬこと加へてこのごろ

恐竜と奪ひあふような心地して銀杏の味銀杏の色

恐竜は氣かぶ触れることは無いのかな私たちまち氣触れてしまふ

葉替終る楊梅やまもも大樹のにぎやかし群雀のピチピチピチピチ

黄色付く落梅ころころがりて権限坂をころころ

玄奘のサンスクリット語經典よ駆け登りたりき大雁塔

慈恩塔の小さき窓よりはるかなるものはるかにありぬ

慈恩寺の境内にして大雁塔誰れも居ぬまま登りぬ帰りぬ

大雁塔の小さき窓よりはるかなるシルクロードよここよりはじむ

西方へシルクロードの始まりをシルクロードのワイン飲みつつ

案じつつ聞く

豊川 安藤 和代

柿若葉日び色濃く輝けど依然コロナは終息のなし

教師なる孫も息子も休校にクラスの子等を案じておりぬ

里は今茶摘みの頃や五月晴れ新茶の香り亡母のたちくる

揚雲雀キャベツ畑のペアルック動ききびきび輝く真昼

思い出は遠くになりて尚深く吾が胸しめる亡夫の二文字

なぜか今日父母や夫が恋しくて佇む窓に柿若葉萌ゆ

夕暮れて親待つ雛もいるならん揚雲雀をば案じつつ聞く

遠住める嫁のくれたるカーネーション吾れの好みを忘れておらず

三人の子を持つ吾は三通りの喜びしみじみ母の日の宵

ランの葉に主の如く雨蛙しかと前足ひろげて三日

新緑に映えてバイクの音軽く今日も届いた喜びの便

上の句下の句

春日井 清澤 範子

「三河アララギ賞」載きてより歌を詠む吾が楽しみなり上の句下の句
婿もなし孫も無くして吾が夫は三人の暮し大切にして来ぬ

庭にある赤白混じりの八重椿を明るく照らし陽は沈みゆく

吾が庭に椿の若葉さわさわに五月の風の吹き通り行く

腰痛にて菜園この春休みたり名も無き草花生きづいてゐる

夫の郷の安曇野^{あづみの}穂高は爛漫に八重の桜と桃の咲く頃

文字書けば忘れし文字の多くして電子辞書をフルに使ひて

大根の葉にはビタミン多くして柔わらかき葉を一夜漬けにする

喫茶して心落ちつき窓越しに街路樹のそよぎ暫し見てをり

山里の深き小川の水面にふっくら桜の蕾を写す

光が見える

大阪 伊藤 忠 男

ひと・人の戻れし街の賑やかさ明るさ活気望ましきこと
ウイルスの正体未知のままなれば怖々始動きようの解禁
どこいるかわからぬ敵に立ち向かうこんな戦い負け戦なり
地下鉄に乗りて見回す人の顔誰とてマスクこれ見慣れたり
手洗いにマスクソーシャルディスタンスコロナに向かう戦いの武器
日の光浴びてまぶしき初夏の風両手広げて深く吸い込む
何があれば何が来たとして巡りくる蛍の季節今がその時
この年のコロナの恵み我に有り小川の蛍独り占めする
庭先に鈍い光が点々と迷いボタルか団扇差し出す
川面にも天の川が見間違う重なり映る蛍の光
シャッターを押して蛍をとらえるも光の点に何が何やら
蛍火にコロナ忘れて川岸を立ち去れぬかなもう九時近し

天に届ける

東京 矢崎直人

我慢するもう少し後もう少し我慢しながら飯嚙み締める

成願時間開かれて道に漏る天に届ける誦経の唱和

竹藪を右に左に夏の蝶地藏観音墓の守り人

帰り道お稲荷さんにご挨拶丸く大きな満月見つけ

町本屋かかるラジオの舟歌や噺家話すみたいな店主

動物園配信動画普段なら見られぬ場所もカメラが入る

動物園のキリンの親子餌食べる頭の上の葉っぱを食べる

アザラシの模様性格毎日の世話で見分けて名前を付ける

白薔薇散りても白き白さうび白猫白き塀を静かに

空見上げブルーインパルス待つ人に朝顔の花青々と揺れ

いこのぼり

東京 森岡陽子

青空を親子でならぶこいのぼりソーシャルディスタンス守りて泳ぐ

皓皓と屋根の上より五月七日今宵の満月フラワームーン

古民家の庭の真中に咲く牡丹つくばい集う雀にぎやか

落ちり行く春の夕陽に照らされし人の気消えし街角さびし

校門の花壇に並ぶパンジーは此方に向いて笑顔にみゆる

町中に笹の取り巻く小園は風の音さらさらさら風

剪定で樹形整う老梅は初夏の光りと初夏の風

約束も予定も真白自肅時に友とかわすは三ヶ月先を

行けぬ旅ニニロツソ吹くトランペット鉄道員のテーマなる曲

彩りの園いっぱいのつつじ花入り口閉ざれ背のびで覗く

母の日

豊川 白井信昭

冬過ぎて春はコロナにほろ苦し尿路結石に自宅養生

日常を失いゆける今だから歌を詠みつつ歌誌を読みゆく

日に一度防災無線は呼びかけるコロナウイルスの感染予防

外出の自粛要請続く日日今日も妻との常なる如く

ひとつのみ白に紅入る斑入花待ち遠しかり今日の開花日

コロナ禍のゴールデンウィーク我と妻常なる如く孫の相手す

み社の楠の葉替えすみ若葉照る朝日に眩し

のどかな春の日を乗せ宅配便「左へまがります」くり返しゆく

「母の日」の外出自粛ありながら白寿の祝いと熨斗のしに手渡す

孫匠真一歳四か月わが抱く両の手に重し十一キロ余り

電子書籍

蒲郡 杉浦恵美子

名鉄の二両繋ぎの赤い電車遠望すればこない可愛い

渡津橋三里も先の対岸にトラック通る見ゆ夕陽を受けて

三河湾東を遮る山々は弓張山地とぞ呼ばるるらしき

双太山のベンチに座して海眺む日暮のひととき日課になりぬ

ああ此処はオニヤンマ探して弟と来しことありき鹿川の淵

黄昏に一層深く鎮もれり散策のはて鹿川の淵

何のためこんなメモを遺したの寡黙な父の心の裡か

丁寧にみじんの玉葱炒め居り長い午前の時間潰しに

紙の本の頁を撫で掌に印字の手触りそつと愉しむ

紙の本と電子書籍とは読後感異なる筈ぞ五感澄ませば

花満ち薫る

横浜 阿部 淑子

北国に桜前線達すれば早くも沖繩梅雨入りの報

閉館の動物園や水族館淋しくて元氣無しと動物達

スクワットつま先かかと上げ下ろし習慣づけて百寿を目ざす

マンションの中庭ウォーク腕ふりて山手線駅暗記成功

卒寿をばめでたき事と祝われし我が身のまわり花満ち薫る

新型のコロナと共有新時代逆境をプラスに無限の希望を

竹の子

豊川 山口千恵子

掘りたての太き竹の子貰ひたり切り口白く瑞々として

ずっしりとわが手に重き竹の子を大鍋出して茹でむとす

茹で上げし竹の子白く柔らかし竹の子御飯を夕餉にたかむ

道端に白き花咲くクローバー立ちどまり探す四葉のクローバー

暗やみに眼閉ぢつつ聞きてゐるはげしくなり来し夜中の雨音

手づくりのマスク作りぬ布マスクかけごちためす鏡にうつして

ジャスミンの花の香りのただよへる玄関前によびりんを押す

バラの花するどき棘のつきてゐる棘をよけつつ瓶に活けたり

出揃ひし休耕田の麦の穂はあるかなきかの風にさらさら

風もなく静かに夜の更けにけり鳴きゐし犬の声もとだえり

眼に見えぬモノ

豊川 夏目勝弘

花終へしサツキのドームひとまはり大きくなりぬ酸素を出しつつ

黒ゴマの粒ほどの虫が飛びてをり羽はあるはず目には見えねど

黒色の糠子を飛ばしむその命不思議と念ふたしかに飛びゆく

丸葉となり繁りに繁げれるカクレミノ隠れて居るやコロボックリが

CO₂を酸素に変へる植物のその仕組近代科学で作れないのか

我が心がどこに有るのか知らざりき知らずともよし確かにあるゆゑ

みそ汁にと刻む野菜の栄養素目には見えねど信じて作る

目に見える物は総て無に返るされど見えざるモノに真実が

芽生えより花を思ひて残しこしキキョウソウも庭の雑草

ネムの木の若葉も今は眠るまでに淡き紅の花を秘めつつ

『いじよせ』

西浦公民館 いーはとぶ

利休梅令和記念に植えました弥生の庭に白き花あかり
いくつかの会合消えし弥生月約束なくとも会へる人らとの

吉見幸子

「アサリは拾うものと思ってた」孫は都会の子になりてをり
一年に鉛筆一本たまはりぬ三センチほどの学習量かと

牧原正枝

小雨降るまるまるとした雀二羽草の間にもつれて歩む
風邪気味にマスク離さず用心す人混みさけてこの緊張感

石田文子

春雷にどこもかしこも濡れそぼつ外猫のみいや何処にゐるや
コロナ禍に外出予定はたち消えり調律終へたピアノ奏でむ

森厚子

桜花散り敷く校庭に子らの声聞くこともなく春はゆきにけり
ウグイスの鳴く新緑の御陵の森行き交ふ人の皆やはらかし

山崎俊子

この日頃限界集落に居るごとし新型コロナに脅かされて
籠りゐて般若心経写経する願ふはコロナの早期終息

三田美奈子

ジャスミンのひらくを心待ちにする老母おいはひこと日毎庭に下り立つ
休校に孫の手作り厚焼き卵食はめばほのかに成長の味

水野絹子

わが畑の大き木下に飛び散りしさまざまな物鳶の巣なるや
何事も早く早くと気が急くは今日この頃のわが日常なり

牧原規恵

山々の桜はピンクに染まり来ぬ見知らぬ人とも微笑み交すわれ
立ち止まり桜吹雪に包まれぬ春日の春は静かに行きつつ

稲吉友江

カーラジオに「明るい日差しがすぐそこに」流れくるかなただただ嬉し
春は今行つたり来たりの歩みにてけふは三河湾の白き遠霞

鈴木美耶子

現代学生百人一首

東洋大学

夕食のテーブルにある母からの手紙毎日日記にはさむ

東京学館新潟高等学校一年

磯野瑠子

母さんと話したい事ある時は助手席座ってラジオを止める

東京学館新潟高等学校一年

近藤杏美

月曜は19時半の越後線1号車には君が居るから

東京学館新潟高等学校二年

菅沼麻沙

妹の恋の話を聞いてみる小さな口から大きな悩み

新潟県立直江津中等教育学校二年

東條華楓

新聞紙進路のために目を通し君を見つけたお悔やみ欄に

新潟県立長岡農業高等学校三年

秋山柚紗

つめたいなねむる祖父の手うごかないなみだこらえて朝だよ、おはよ

新潟県立長岡農業高等学校三年

横山未咲

「生茶」より「綾鷹」がいいと言う君は私のどこがいいと思うの

伊那西高等学校二年（長野県）

小島和

スキヤキで眼鏡が曇る父の顔これが私の最後の記憶

上田西高等学校二年（長野県）

笹本隆志

贈呈誌

森岡陽子

青森アララギ 第四百十一号

○寒緩む天を風切り飛び翔けてカミナリシギは渡り集へり

鈴木隆之

○暖冬に野菜育ち過ぎ値崩れす豊作貧乏と農家は嘆く

相馬富美子

○人影もなき湿原の池の面に真紅の睡蓮影をうつせり

木浪みつゑ

○「立ちん坊で寒くないか」とそつと聞く絵馬売りながら白き顔向けぬ

安住晶子

○雪が舞う浅瀬に集う白鳥の羽振りの姿水面に映える

浜田清勝

月虹 133号4月

○潮風をのがれて入りし谷道に水子地蔵を囲む母子をり

井村喬泉

○ 囲碁打つ手止めて眺むる春の雪友も驚き共に眺むる

駒ヶ嶺泰秀

○ 水淀むあたりまぶしく銀色のさざなみなして春の川ゆく

八幡道子

○ ヒマラヤの雪の下なるうす紅の鶴首に挿し姿を愛でる

桜井範子

○ 咲きぬるを浸すものあり寒き日の風に逆らひ来れる虫か

鮫島満

冬雷 6月号

○ いにしへに還れと山は若葉萌ゆ畏怖のこころを忘れし我ら

天野克彦

○ きみどりの草おほふ土もちあげてもぐら作れる森の中道

古嶋せい子

○ 見上ぐれば慰霊の園にただひとり御巢鷹山の慟哭を聴く

町田勝男

○ 山肌に沿ひて湯煙立ちのぼる由布岳の霧にしばしまぎるる

戸部田とくえ

○ 手水鉢の水に花びら一つ落ち柄杓に汲んで口元に寄す

谷田律子

桃太郎さん音頭

高橋育郎 作詞

一 正義の味方だ 桃太郎さん

気はやさしくて 力持ち

昔々の そのまたむかし

桃から生まれた 元気な子

いつでも いつでも みんなのアイドルだ

二 生命のみなもと 太陽を

シンボルマークの 桃太郎さん

日本一の 旗ひらひらと

いぬ さる きじと手を結び

そりゃ進め そりゃ進め 勇んで鬼退治

三 腰につけてる お弁当は

健康一番 きびだんご

桃太郎チームは 栄養萬点

力もりもり たくましい

逃げて行く 追いかける 鬼どもこらしめろ

四

逃げた鬼ども どこえやら

闇から闇へと はびこって

この世の中に ひそんでいては

人間様を 苦しめる

呼んでみよう 呼んでみよう みんなの桃太郎さん

五

呼べばこたえる とんでくる

頼りにしてます 桃太郎さん

みんなの憧れ スーパースター

時代を超えて これからも

すこやかな未来を 守ってくださいな

『俳句』

菖蒲笛一人たのしむ湯舟かな

重野善恵

此の頃や大鯉幟とんと見ぬ

道祖神誰手向けしやカーネーション

シャツター街閑散として薄暑光

山迫京子

サプリメント一つ増やして薬の日

コンビニ前のセルフサービス苗を売る

山吹は一重がよろし山の宿

松本周二

ふらここを揺らせて泣いてゐるあの子

たかんなのまままで六尺通り雨

短めに髪をそろへて夏はじめ

山元正規

山おりて薄暑の街に戻りけり

朝焼けをまとひて蓮の浄土かな

薫風の客の少なき繩のれん

田中清秀

目を合はす刹那に失せし蜥蜴の子

命日や八等分の早桃食む

ふらここに腰掛け歌うゴンドラの唄

浜田紀政

朽ちかけたテーブルと椅子櫛若葉

バス停の名入りのベンチ柿若葉

葉桜に読経の抜けて仁王門

森岡陽子

茂みよりくぐもり声の野禽かな

筍の灰汁の鎮まり雀群る

連翹の盛りや兄の忌の近し

植村公女

外出を控えし夜の花の雨

相席の糸口となり春蜜柑

青桐や一戸兵衛いちのへひょうえ生誕地

今泉如雲

津軽藩城下の土墨栗の花

雉鳴くや馬頭観音蛇神社

すり鉢に母の匂いや蓬草

木村歩歩

魚跳ねて青鷺あおさぎ降りる魚道下

校庭に午後の静けさあやめ咲く

行く春を追ひかけてゐる速足に

今泉由利

階段や初夏の空へ登りゆく

雨過ぎぬ風吹きゆきぬ花櫛

夕騒を遠筒鳥のまぎれなし

杉浦弘

赤彦の水穂の歌碑に遠郭公

日は中天なほ筒鳥の鳴きやまぬ

軍茶利の口開く時ほととぎす

牟々と重たき夜の牛蛙

ふた跳ねし道より草へ鳥の子

かさね吟行会

「吟行会が中止になったので③」 5月

田中清秀

五月八日のかさね吟行会も中止となった。緊急事態宣言の一ヶ月延長が五月四日に発表され、またまた取止めとなってしまった。

疫病との戦いは今に始まったことではない。古くはローマ帝国時代からあった天然痘ウイルスによる伝染病は、その致死率は三十パーセントと言われアメリカ大陸から中国、朝鮮半島まで広まり、世界中に流行し恐れられた。日本でも前回にふれた大仏建立のきっかけともなった天平の大疫病（七四三年）も天然痘だった。その後、今から約二百年前にイギリスの医師ジェンナーが種痘による予防方法を発見し、免疫療法が確立した。そして、一九八〇年には天然痘の根絶が宣言された。その間、二千年におよぶ長い疫病との戦いの歴史が必要であった。

また、十四世紀中頃ヨーロッパに大流行したペスト菌の感染症である黒死病は、当時の世界人口の四分の一近くの一億人が命を落としたと言われている。細菌である

ペスト菌はノミやネズミなどの野生動物を媒介として伝染し、人へ移るのは飛沫感染がおもだったようだ。その後、多くの学者の英知と努力（パスツールやコッホと共に日本の北里柴三郎の名も刻まれている）により、さらには抗生薬の開発と適切な衛生管理により、一九九〇年以降人の症例はアフリカ大陸に限定され、ほぼ克服されている。

さらに近年では、一九五七年頃のアジア風邪、香港風邪、一九八〇年のスペイン風邪などインフルエンザウイルスによる感染症が流行し、その度にパンデミックが発生し多くの犠牲者を出しているが、やはり多くの人の努力と貢献により、有効な治療薬とワクチンの開発がなされて収束している。その当時の治療対応や予防策の記録は今も残っている。

「愚者は経験に学び賢者は歴史に学ぶ」は、鉄血宰相と言われたビスマルク（一八二五年―一八九八年）の言葉として知られている。意識すると歴史を学びそれを経験の代替とし、事前によく勉強しておく、さらに獨創性を加えて新しい知恵を生み出す、その知恵によって成功を得ると言うことだろう。今こそ大切にすべき名言と言ふべきだ。また、日本人には、台風や干ばつの激しい気候変化、何年かに起こる大地震の発生などの歴史的な経験をしている。その為、意識せずとも、言い伝えや慣習

で「そなえ」が自然に身についているようだ。頬ずりやハグをしない挨拶、きれいな好き、靴を脱ぐ習慣、さらには我慢強く律儀な気質と横並び志向など、この日本の何でもない特性が世界から改めて評価されて良いのではないか。

緊急事態宣言が少しずつ解除され出した、五月二十二日に記す。

余談

「我こそは、アマビエと申すものなり。当年より六年間は諸国に豊作が続くが疫病もはやる。だから我の姿を絵に描き写し、人びとに早々に見せよ」アマビエとは、江戸時代に後期に肥後国の海中より現れた得体の知れない「予言獣」、これから起こる災難を予言し、それを避ける方策を示すと言う。すでに多くの形（ぬり絵や和菓子、日本酒など）で広まり、インターネット上のSNSにも現れている。

今回出現するのは天保、安政、明治に次いで令和が四回目だそうである。



妖怪アマビエ

『酔いの徒然』（九九）

丸山 酔宵子

『浅間の麓でのコロナ疎開』

今日も東京で一日1000人超えの新型コロナウイルス感染が発表され、「非常事態宣言はいつ発令されるのか」連日報道されている。

3月末、東京に居ても仕事にならず、映画もバーへも行けないのであればと、パソコン一式と絵画道具とワイオン、ウイスキーを積んで浅間の麓（ふもと）御代田のログハウスに暫しの疎開。昨年末以来で、ログハウスは冷えて切っていて摂氏2度で、外気のほうが温かい。明日は東京も雪との予想で、浅間は既に雪化粧で今夜は大雪になるらしい。

早速ガスストーブを付け、暖炉に薪をくべ火を点ける。部屋が温まるまで数時間かかるため、早速周辺の軽井沢にあるスーパー「TSURUYA」に当面の食料を買い出しに行く。長野は感染者が未だ10人足らずで、危機意識

はないのではと思いきや、7都府県緊急非常事態宣言が近々発表かとの危惧からか、マスクをしっかり付けた地元のお客がかなり来客している。しかし、長野県民の意識が高いのか、レジ付近ではソーシャル・ディスタンスが自然と保たれている。

ログハウスの周辺は地元の家々が鬱蒼とした木立に囲まれた中に点在し、一里塚という一つの集落となっていて、昔の隣組のような村会コミュニティができています。その中に、東京ナンバーの車が止まっているのは非常に肩身の狭い思いで、不信任を抱かせないため、車のフロントに「陰性です！」とでも書いて張っておくか……。いよいよ、4月7日政府は新型コロナウイルス感染症対策として緊急事態宣言が発令された。

「こちらは御代田役場で――です。新型コロナウイルス感染防止の緊急非常事態宣言が……」と村内大型スピーカーで昼時と夕刻に注意喚起するのである。

更に追い打ちをかけるように、役所の広報車が村内をくまなく巡回し、事もあろうに、「首都圏は非常事態宣言が発令されました。県外のご親戚、ご友人には、御代

田に来るのを控えてくださいとお伝えください……。」
これは本当の話です。

ログハウスに疎開して、はや、3週間。一日一回は春
たけなわの周辺を散歩しているが、車の往来も少なく、
近隣の住民も「3密」を避けているのか、滅多に顔を合
わせることもない。今が盛りの山桜もどことなく色褪せ
ているような……。

それでは、コロナ禍俳句シリーズです。

また三桁コロナ感染今朝の夏

夏場所や無観客でもままならず

雷鳴に潜めるコロナ霧散せよ

新コロナ空に飛び去れ青嵐

外出はマスクを付けてサングラス

酔宵子

楽しい時間 92

山本紀久雄

2020年5月31日

神にならなかつた鉄舟・・・その二十二

聖徳記念絵画館『江戸開城談判』壁画、最終的に以下3項目の疑問について検討する。

1. なぜに「江戸開城場面」が選ばれず「薩摩邸の場面」が壁画として選定されたのか。
2. 史実は「嘆願」であるのに、壁画題名を「談判」としたのはなぜか。
3. 壁画の海舟の刀に位置が、下絵及び画題考証図と異なる置き方にしたのはなぜか。

一項目ずつ検討し説明していきたい。

まずは1の検討である。江戸開城は慶応4年(1868)4月11日である。二世五姓田芳柳はこの史実に基づき、まず『下絵』を二枚描いた。その一枚は上段枠外に「江戸開城(玄関前)」と書かれたもの。

もう一枚は絵の上段枠外に「江戸開城」と書かれ、下段右側から「若年寄 大久保一翁」「柳原」「橋本」「田安中納言」「西郷其他」と記されている。

この二枚の『下絵』にはいずれも海舟が描かれていない。開城当日、海舟は江戸城にいなかった。どこにいたのか。海

舟日記4月11日『慶應四戊辰日記』が述べる。

《御城、武器等、引渡済む。君上、払曉御発途。小臣八日より本日に到り、東西之奔走、夜間は四方を通行し、其動静を伺ふ。本日、浜海軍局へ到り、屋上に砲声を望ましむ。幸いにして無事成るは、天歟、命歟、若一朝不測之変生せば、官軍へ駆入り、其誤を一身に受けむと志す所、幸にして無事》
海舟は万一に備えて「都下鎮撫」の任に当たっていたため、開城には立ち会えなかつたのである。「江戸開城」の場面になかつた海舟がなぜ、壁画に描かれることになつたのか。ここに在京有志が作成した最初期の明治神宮計画案が絡んでくる。

前号でも紹介したが渋沢栄一をはじめとする東京の民間有志たちの運動は、明治天皇を祭神とする神社建設にむけて大きく舵を切り、神宮は内苑外苑の地域を定め、内苑は国費で、外苑は国民の献金で造営すべきこととされた。

こうして神宮外苑の聖徳記念絵画館建設と、そこに展示される壁画の作成は「国民の献金」で賄われることになり、江戸開城に関する壁画については「侯爵 西郷吉之助・伯爵 勝精」が奉納を申し出たのである。しかし、ここで勝家の立場と

〔三二〕、中外新聞〕三月十五日

の御願書 ○此度御征討使御整下相成、今十五日江戸表御討入の風聞有之候付、御歌願相成候處、大總督府へ御請まで御討入の儀具、陸軍、参謀西郷吉之助相登候に付、陸軍并に市中芸人に動搖いたし意外の不都合を生じ候では以外儀に付、諸事詳後いたし御沙汰相待候様致候。三月

頃より三街道の先鋒退き江戸へ入込み、毎日市中を巡見す。然れども先々平穩に市中の者一同少しく安堵す、何卒暴殺の異變これなき様に致したき事なり。此度かくの如く穩かなるは、日光宮様への御取次、殊に勝安房守の盡力にて、参謀西郷來の賄察に依り平和に成たる由なり。

しては、海舟が登場する場面壁画でない^とと奉納する意義が薄いと考えたのであろう。そこで持ち出したのが慶応4年(1868)3月21日の『中外新聞』に掲載された記事と挿絵である。

記事は、官軍の江戸総攻撃が見合わせられたことを伝えたもので、『勝安房守の盡(尽)力にて、参謀西郷某の周旋に依り平和に成たる由なり』と記され、海舟と西郷が座敷内で相對する姿を描いた挿絵が添えられている。

二世五姓田芳柳が「江戸開城」に関して蒐集した史料の中にも、中外新聞は存在したのであるから、明治神宮奉賛会理事で、事務局として聖徳記念絵画館壁画作成に関する実務を取り仕切った水上浩躬^{みなみひろみ}も、この記事と絵は把握したのであろう。

史実に基づけば、江戸開城を描く構図としてふさわしいのは「江戸開城(玄関前)」と「江戸開城」のどちらからか



慶應四年三月 (皇紀二五二八) 西郷 勝安房と江戸開城談判



あつて、三枚目の「画題無記名」の「薩摩邸の西郷・海舟」場面は当初は考慮外であったはず。

そこに、奉納者である勝精から中外新聞を提示され、勝家の奉納申出の意図を付度した水上は、二世五姓田芳柳に三枚目「画題無記名」という『下絵』(上左)を描かせ、これを許に『画題考証図』(下)としたのではないか。このように推測する。

水上は心中苦慮したのであろう。後日、「江戸開城」場面が選ばれなかった理由を「西郷と勝の対面場面の方がわかりやすいから採用した」と述べているが、これは歴史史実を表現したのではなく、「フィクション」に他ならない。

川井知子氏が指摘するように《絵画館の造営の背景に「歴史」を作ろうという動機があった》(『明治神宮聖徳記念絵画館研究』『哲学会誌』第21号平成9年11月学習院大学哲学会)ということになる。

結果として「江戸無血開城は西郷と勝との会見で決まった」とする見解が一般に流布する因をつくったことになる。



明治神宮聖徳記念絵画館

絹の話 (116)

「アトリエテレビ」今 泉 雅 勝

新型コロナウイルス後の世界 環境改善に大貢献

ウイルスと昆虫と人の起源

ウイルスは地球上に38億年前発生し、生命の誕生の基になり、生物とは言い難い微細な物体はその50倍もある菌に宿り、その後発生して来る多種多様な昆虫から爬虫類、両生類、鳥類、哺乳類等蛋白質を持つ生物の細胞を宿主として、今日まで繁栄を続けて来ました。

昆虫は4億8千年前に誕生し、小型化し、被子植物（花の咲く植物）の広がりと共に、生命が早く早い回転で今日の地球上に大繁栄を獲得し、その中でも絹糸昆虫は繭（糸）と云う抗菌性の強い生命維持装置取得しました。

人類は200万年位前アフリカに誕生し、北京原人、ジャワ原人等が東方に展開して行き、40万年位前、ヨーロッパ方面にネアンデルタール人、その後10万年遅れてホモサピエンスが拡散して行き、彼らの一部はネアンデルタール人と混血しながら今日のヨーロッパ人を形成して

行ったと推測されています。さらに10万年遅れてアジア方面に広がって行った小型のホモサピエンスが黄色人種ではないでしょうか。ホモサピエンスはひ弱な存在でしたが、共同生活で知恵を共有し、昆虫や動植物物を捕獲して生活して来ましたが、それらからウイルスや菌などによる感染症を受けたと思われれます。

大型で豪腕な石器文化を持つネアンデルタール人もウイルスや菌禍で免疫構造を取得出来ず絶滅したのではないのでしょうか。

性別、人種による新型コロナウイルス感染率の差

ニユースを見ていると新型コロナウイルスの感染率、致死率は識色能力が女性より劣る男性の方が高い様です。

また黄色人種の方が感染率も低いようですが、黄色人種はアジア方面に展開する長い道程の中で、環境や気候変動に伴う色々なウイルスや菌に遭遇し、遺伝子の中にウイルスや菌に対する免疫構造を取得して生き残れたのではないのでしょうか。白色人種はウイルスに対する免疫構造を持つ者が少ないと考えれば、今日の白人の感染率が高い状況が理解出来ます。その免疫構造は加齢と共に弱まり、糖尿病者などには免疫がさらに抑制されるのかも知れません。

新型コロナウイルスが招いた現在の産業構造

世界の経済は18世紀からの産業革命により何億年も前に地下深く埋蔵された石炭や石油を大量に「寝た子を起す」ように消費して、空気も水も汚染し、昨今では薬剤や化粧品等のナノ構造の商品の氾濫で汚染が目視出来なくなりました。温室栽培で多大なエネルギーを使いミネラルも繊維質も少ない野菜を作ったり、アトピー性皮膚炎などを助長し環境を汚す化学繊維を大量生産販売する経済構造は格差社会を生み、加えて人為的なおびただしい電磁波が交差する地球は未曾有の環境変化に直面しています。新型コロナウイルスもこの環境下で発生して来た事に留意しなければなりません。

求められる今後の世界

新型コロナウイルス禍の後には新しい経済システムが出来ると言われますが、形を変えたグローバル大量生産システムでは再び超新型コロナウイルスに見舞われる恐れがあります。とは言え、新たな経済体制は「集まって知恵を共有する」と云う人類最大の特性をパーチャルの世界に任せる方式で進んで行く事になるでしょう。

しかしエネルギー不変の法則が示す通り、人の生活が便利で楽になった分だけ環境は悪化し、人心は荒廃します。そこでそれらを補完する古くて新しい産業求められます。自然や人の暖かみに触れると幸せホルモンが

分泌される様なアナログでエコな産業です。

これは90%を占める日本の中小零細企業の出番です。かつて中国の漢王朝が絹を兵装に用いて強大になった様に、絹がエコで健康維持素材として再登場するチャンスです。新型コロナウイルス禍で回復した自然環境をこれ以上悪化させない産業構造政策が国に求められます。

新型コロナウイルス禍は劇的に環境改善に貢献した

世界中鎖国状態で、飛行機もほぼ飛ばず、生産活動も激減して数ヶ月弱。かつてないほどロンドンの空が青いそうです。世界の鳩首を集めた環境会議を重ねても為し得なかつた事を、新型コロナウイルス禍は僅かの間に環境改善の多大な成果をあげました。異常気候も平穏に戻るかもしれません。

蚕が近年果たして来た大きな役割

「繭は糸に加工」しなければならぬと云う蚕糸業法が1998（平成10）年に廃止され、絹産業は新しい時代を迎えました。その中でも特質されるは、蚕はインターフェロン（ウイルスの増殖阻止、細胞増殖抑制、免疫調整）やワクチン（感染症に対する免疫を作る）を効率よく大量生産する事に貢献しています。

本田カイロプラクティック先生の春夏秋冬

本田 勇氣

2020年6月5日

梅雨が始まる前に

風がまだ涼しいですが陽射しは夏日のようですね

今のうちにお天道様の陽射しをいっぱい浴びて

免疫力を上げつつ自律神経も安定させておきましょう

自律神経といきますと

以前の 本田のひとり言 にもチラッと書きましたが

コロナウィルスの精神的影響が2〜3か月後に来ます

更に梅雨に入り日差しもなくなるとイライラしたり

被害妄想が酷くなったりやる気が出なくなったり

悲しくなったり寝れなくなったり笑えなくなったり

食欲のコントロールが出来なくなったり

何も考えられなくなったり

人の話が入ってこなくなったり

などござ 鬱っぽい症状が出やすくなります

普段 真面目な方や一生懸命な方

しっかりといる方は要注意です

自然災害や疫病の後は大きな事件が起きやすい

というのはこういう事が関連しているのかもしれませんが

そこで ゆっくり湯船につかる 冷たいものを飲まない

運動して汗をかく 座りっぱなしにならない(30分まで)

スマホを見過ぎない(特に寝る2時間前は見ない)

遅くても23時までには寝る

あとは あれっ?おかしいな? 変だな 辛いな…

前に進めなくなる前に 立ち上がれなくなる前に

遠慮なく御連絡下さい

一緒にゆっくり乗り越えて行きましょう

今日も笑いながら行きましょう

2020年6月3日

軽症熱中症になる前に

湿度が高いのは気温が高いよりきつく危ないですよね
この時期は汗腺がまだ慣れていなく汗をかきにくく
熱が体内にこもりやすくなり軽度の熱中症になりやす
くなります

この軽度熱中症 1回なりますと身体を治さない限り
頻繁になりやすくなります

症状として

頭痛

吐き気

めまい

熱っぽい

倦怠感

目の問題

ゲップ

などが軽症ですが出やすくなります

ですので喉の渇きを感じないように

定期的に細目に水分摂取するのがベストですが

少しおかしいな?と思いましたら

イオンウォーターなどがお勧めです

今の時期でしたら大量に摂取するのではなく

1日の水分摂取量に何回か分けて300ml位を分割で

プラスしながら摂取するのがお勧めです

これにより身体への吸収率が上がり水分不足を補えます

軽症熱中症になりますと免疫力低下にもつながります

引き続き

免疫力を上げて身体を労わって行きましょ

今日も笑いながら行きましょ

「江上浩二の独り言」 31 江上浩二

私の澁澤榮一氏

普通、著名人の名は知っていても、何かの事情がない限りその方の人となり深く立ち入ろうとはしない。私も東京北区に住み始めて40数年、今年67になる。北区では澁澤榮一氏が一万円札の肖像画に選ばれたとか、NHKの大河ドラマ番組の主人公に選ばれたとかで、盛り上がっている。私は澁澤氏の名は知っていたが、深く立ち入ろうとしたのは約10年前のことである。そのことをマイブログに書き残しておいたのを思い出した。その後、地元の先輩に誘われ、深谷の澁澤榮一の実家見学まで出来た運を得た。

2010年11月15日記す。

Bank (ブログの題目)

この英語は、我々は今では「銀行」という言葉で受け入れ、金融機関の主役を演じていることは誰でもが知っている。

先日、早稲田穴八幡神社で、毎年開催されている古本市で買い求めた一冊の古書、幸田露伴著、澁澤榮一傳(昭和十四年六月十日初版発行、岩波書店)を、昨日目を通していた。購入して直ぐ、全頁は読まずに、ページを捲って部分的にどのような澁澤榮一が描かれているのかと探ろうとはしておいた。

昨日の朝、NHKの番組紹介で、12月に入って再開する坂上の雲の第2弾の紹介をしていて、ちょうどテーブルの上にあった、少し時代は早い活躍したこの澁澤榮一傳のページを捲った。ページを進めると、第一国立銀行をひきいた澁澤が明治初めに、Bankという英語に和訳の「銀行」を授けたと説明している所に出会った。以下その下りを私が現代的に示したものである。

銀は銀(シルバー)だけを意味せず、金銀の兌換性を言い、行(注)は舗、業、糸屋・米屋・石屋の様に使われている屋の意味を持たせてあるという。舗は店舗、業は広く使われ、商業という程度大規模な経済活動をしているもの、x x屋は中小企業の商いから物作り工房などの意もあると思う。

注…行は元人の百二十行、明人の三百六十行の如くと書中で引用されている。調べたところ、元人の百二十行は不詳だが、明人の三百六十行は蘇州版画で蘇州の繁栄を象徴する商店や運河のにぎやかな光景を描いており、それを引用したものと推察される。神奈川大学の非文字研究サイトに出ています。

これらの漢字の組み合わせを変えると、金行、金舗、金業、金屋、銀舗、銀業、銀屋などが出来るが、やはり「銀行」が澁澤にはぴったりののだらう。

さて、本来の銀行の役割は蘇州版画三百六十行図にあるように、繁栄を象徴する商店や運河のにぎやかな光景をいつまでも作り出したり、継続したりすることであつて欲しいと思う。いたずらに、マネーゲームを先導したり、金融経済政策として管理、制御する側に立ち過ぎないで欲しいとも願う。

地元北区に、澁澤榮一資料館もあり、明治以降に三菱をまとめ上げた岩崎弥太郎に視線が行ってしまうが、関東の澁澤榮一にも目を向けて欲しい。

詳しくは、澁澤榮一資料館サイトを参照して下さい。

かくして、Bankに象徴されるように、明治時代に入つてからの澁澤氏の活躍貢献（多くの銀行、株式会社設立や事業支援、慈善団体の設立・支援）が評価されているようだ。

が、しかし、私は、江戸幕府の大政奉還から明治維新時の国難の際に、澁澤氏は日本におらず欧州に居て、水戸藩の徳川昭武（御年十五歳）の巴里万博視察団随行員の端くれとして働き、万博後留学中の水戸藩の徳川昭武を帰国させるべきか、万が一欧州滞留が長引くかも知れぬと、会計係として不足していた資金の工面、質素な生活、さらに今でいう保険や有価証券投資（数年は日本へ帰還出来ない事を想定）をして、借金返済や少しの蓄財までした能力（榮一は欧州の経験豊富な経済・金融界の知古より仕組みを学んだ）に注目して頂きたいし、チャレンジ精神を評価して欲しいのである。

澁澤氏は昭和六年九十二才で旅立たれたが、明治維新の時は若千二十七才であった。今の時代で、若輩の二十七才でこれだけの使命を受け、そして主君を守り、欧州の経済的仕組みを理解し、習得し得た成果を開花させ熟成出来るだろうかと考え込んでしまった。

漢詩研修 (四十五)

千代田岳精会 平井茂行

草くさ

離々リリたり原上げんじやうの草くさ

野火やか焼やけども尽つきささず

遠芳えんぽう古道こどうを侵おかし

又また王孫おうそんの去さるるを送おくれば

白はく

一歳いつさいに一ひとたび枯榮こえいす

春風しゅんぷう吹ふいて又また生しやうず

晴翠せいすい荒城こうじやうに接せつす

萋々せいせいとして別情べつじやう満みつ

居きよ

易い

【作者】白居易（七七二〜八四六）中唐の詩人。字は白樂天。号は香山居士。下邳（陝西省渭南県の北五十里）の人。また先祖の出身地を称して太原（山西省太原県）の人とも言う。幼少の頃より明敏で、五、六歳のころ詩を作る事を学び、十五、六歳のとき都へ出て、文壇の領袖・顧況こきやうに大いに認められた。貞元十六年（八〇〇）進士に及第、三年後に校書郎に補せられた。元和元年（八〇六）翰林学士となり、更に左拾遺に転じた。元和十年（八一五）宰相の武元衡ぶげんが刺客に暗殺された時、犯人逮捕を上疏したところ、それが越権行為であると憎まれ、江州（江西省九江県）の司馬に左遷された。時に四十四歳、其の後、元和十三年（八一八）忠州（四川省忠県）の刺史に転じた。五十五歳の時、病気の為に職を辞し洛陽へ戻った。彼は詩を作る度に老婆に詩を聞かせ、理解できるまで改作したとの逸話がある程、その詩は平易通俗、温厚和平で広く人々に愛誦された。彼の詩文は我が国にも伝わり、平安以後の文学に大きな影響を与えた。

【語釈】○離々・・・草がつやつやと生い茂っているさま。○遠芳・・・遠くまで続く草の香り。○晴翠・・・晴れた草原の緑色。○荒城・・・崩れかけた城壁。○王孫・・・王様の孫。若者を洒落た言葉で王孫と表現した。○萋々・・・草が盛んに伸び茂っているさま。

【通釈】盛んに生い茂っている野原の草も、一年に一度栄え、そして枯れる。冬になって野火に焼かれても、その根は尽きる事が無く、春風が吹き出すと又芽を出すのである。草の香は遠く古い道に漂い、晴れた日の草原の緑色は崩れかけた城壁に連なっている。又もや王孫の旅立つのを送るのであるが、草の生い茂る中に離別の情が満ち溢れてくるのである。

『献身』

中屋保之

前代未聞の緊急事態宣言がやっと解除となった途端、第二波が懸念される事象が現れている。東京都については、「東京アラート」が発令されてしまった。報道によれば、医療現場の危機をよそに夜の盛り場や若者たちのパーティーでの集団感染が顕著だとか。

この国家的難局に、身を挺して奮闘される方々には感謝の気持ちでいっぱいである。自分の身を守ることが大切な家族や友人たちの命を守ることだと改めて思い知らされる。

《明治十九年（一八八六）、渥美町一たいにコレラという病気がたくさん出ました。

コレラはうつるが早く、うつったがさいご、高いねつとはきけに苦しんで死んでしまいます。だから、コロリだといって、おそろしがられています。

「まんだいきのあるうちに、がんおけへ入れちゃったげえな。」

「どうせ助からんだで、はや死んでもらったほうが、村のためだ。」

「コレラらしい人じゃあ、毒をのませるげえな。」

そんなひそひそ話で、村中がさっきだっていました。

江崎邦助巡査は、六月十五日に、消毒をするため、医者と一しょにこの地へきました。十九日、また堀切村でコレラが出たという、すぐ消毒に行くと、近所の人たちは、「コレラじゃない。かえれ、かえれ。」「毒をまいて、まめなもんまでころす気か。」などといって、さわぎたてています。病人をなんどのくらやみにかくして消毒をさせないのです。

江崎巡査は、よくよく話してきかせやっと消毒をすませました。

二十二日、江崎巡査は、こちらのようすを田原警察署へ報告に帰るとちゅう、若見までくると急に苦しくなり、はげしいはきけで歩きつづけることができず、人力車にのりました。

加治までくると、もう人力車にもものつておれないほどです。「わしはコレラがうつってしまった。この病気で田原の町へ帰れば、大ぜいの人に入つて、大へんなことになる。」

といって、加治の林の中へ入り、車夫にたのんで、田原警察署や役場へ知らせてもらいました。

医者やおくさんのじうさんがかけつけて、つれて帰ろうとしましたが、ききいれませんでした。人家を遠くはなれた林の中の、くちかけた小屋でねていました。

じうさんが一心にかいほうしましたが、あくる日の二十三日に、とうとう亡ってしまいました。

じうさんもまた、コレラがうつって、二十六日の夕方、同じ小屋で亡ってしまいました。

ふたりはけっこんしたばかりで、二十五才と十九才でした。

このおかげで、田原の町ではコレラにかかった人は、ありませんでした。

ごんげん山のふもとに、江崎巡査とじうさんの記念碑があります。毎年命日には、田原警察署で法要を行います。》

「もと」ばあちゃんのおはなし（田原市教育委員会）より

今から百三十四年前の出来事である。この頃、大阪から流行したコレラが、六月に入ると愛知県に広がり、多くの患者を出していた。邦助は分署長の命で管内を巡察していた折、堀切村（現・田原市堀切町）でコレラの疑いがある患者がいるとの情報を聞きつけ、医師を伴って現地に向かい、速やかに患者の隔離や近隣の消毒に取り掛かるが、患者や村人は激しく抵抗し、投石や竹槍で邦助たちを威嚇するあり様だったそうである。

邦助は、権力を振りかざすことも法を強制することもせず、説得に精魂を傾け、ようやく村人の理解を得る事ができた。そして医師とともに、患者の隔離や住民の健康診断、村人のみならず通行人に至るまでの徹底した消毒作業など、衛生対策に努めた。対策に目途がつくと、詳細を署に報告するため堀切村を出発したが、ついに力尽き『もう自分の助かる見込みはない。いま田原の市街地に入れば、コレラを大勢の人に感染させる恐れがある。また、コレラへの恐怖心から無用の混乱を起こしてしまう。』と治療を拒否する。やむなく近くに掘立小屋が建てられ邦助が運び入れられると、じうは人々を説得し帰らせたと言わる。邦助は彼女の看病を受けるも、翌二十三日午後、不帰の人となる。じうもコレラに感染し同月二十五日に発症、翌二十六日に邦助を追ってしまふ。

佐賀県唐津市の増田敬太郎巡査、埼玉県上里町の新庄精明巡査など、このような話が各地に残っているのが、同じ日本人として誇らしい。

偶感ぐうかん

令和二年五月

横山精真

疫病えきびょう俄然がぜんとして 猛威もういを奮ふるう

文明ぶんめいの英智えいち 虞おそれを払はらうに微かすかなり

歴史れきしを参観さんかんすれば 何なにをか思おもわんや

無事ぶじ平和へいわは 只ただい祈いのりに在あり

偶感 令和二年五月

疫病俄然奮猛威 文明英智拂虞微
参観歴史思何也 無事平和只在祈

〔語釈〕 ○疫病：…はやり病。 ○文明：…人知が進み、世の中の開けること。 ○英智：…すぐれた知恵。 ○虞：…心配。 ○参観：…あれこれとよく調べる。

〔解説〕 新型コロナウイルスがにわかには猛威を奮っている。この様に発展した世の中でも人々の恐れ心配を払いのけるには人の力は微々たるものだ。

歴史を振り返れば人間は自然災害や戦争と疫病との付き合い合いだ。

いつの世でも新しいウイルスや菌が発生して疫病となるのだ。コレラにばかり、第一次世界大戦時のスペイン風邪は五千万から一億の人が死亡している。

そして菌やウイルスはその時生まれたのではなく、いつの世でも存在して、人間との係わりが出来た時、その存在が顕著にあるだけの事とか？！

文明は人間の驕りか！

はた又、何かがそんな人間界に警鐘を鳴らしているのか？

そんな事まで思わされる。

無事に過ぎすこと、世界が平和である事は只祈りの中にあるようなものだ。

仏像彫刻 (六)

藤崎 徹

5. 成熟時の作品

(1) 成熟期の第一作目は「大日如来」からはじめました。「松久宗琳の仏像彫刻、入門から中級まで」を参考にし、坐像五寸に拡大して2006年(平成18年)10月に完成しました「大日如来」です。

私が考えたのは、「自分の守護佛」を彫りたいと思い「大日如来」を彫刻する事にいたしました。「大日如来」は「未申」の守護佛です。

素晴らしい見本として運慶作「大日如来坐像」を模刻いたしました。

座高六寸、立像であれば一尺の像になります。初めての一寸像です。



(2) 続いて、「松久宗琳の仏像彫刻、入門から中級まで」から一寸佛として、2007年(平成19年)の11月に完成したのは「不動明王」です。

「不動明王」は、大日如来の化身と言われておりましたので彫刻いたしました。

(3) 「仏像彫刻の技法、松久朋琳監修、松久宗琳著」の写真を一尺佛とし、2008年（平成20年）の11月に完成したのは「毘沙門天」です。

「毘沙門天」は「上杉謙信の守り本尊」でもあり、自



初めての怒り物を彫刻し仏様の深さを知りました。この「不動明王」も一尺、30センチの佛像です。光背の先端から框までの寸法は57センチになります。



分の守りをお願いしたく彫刻をいたしました。御身は一尺ですが、光背から框までは58センチの佛像です。今までの佛像は裸でしたが、鎧を着た佛像は初めてとなります。

見る (1) 夏目勝弘

目覚めて先ず目に見えるのは、天井と蛍光灯、そしていつもと同じ目に映ってくる物を網膜に、映る物を目に追うのみ。

ふと自分は今日一日、何を見てきたのだらうと、それすらすもも忘れることが多い。

意識してみていたのではなく、二つの目が習慣として見ていたのみである。

一日中家に居ることの多い毎日、モノを見るとは、どうゆことなのか、意識してモノを見るのは、自分としては短歌を作る時ぐらいなものである。

三次元のこの地球は、多様性の世界であり、計り知れない変化の世界である。

見方も、考え方も、表現方法も、多様性でなければならぬ。それに環境の変化を考えれば、モノを正しく見ることは無理。

でも短歌一首を作るために、見た、感じた事を正しく見て、表現するのらでできる。

その方法を思いつくまま書いてみる。

1 映像として客観的にとらえる。

2 自分の思いを入れる。

3 相手の立場で考える。

4 大自然の摂理、多様性、環境をどのように表現するのか。

以上の事を思いながら、手元にある、角川文庫の(芭蕉全句集)の作品より参考になる作品を調べてみることにする。

- ① 客観的に捉えた句
- 田や麦や中にも夏のほととぎす
- ほととぎす大竹藪をもる月夜

ホトトギスは当地区では、ほとんど声を聞くことがない、一度ききたいものだ、思いつけていた。六月の中ごろ明方に、恋ひ待っていた二声を聞く。嬉しく二音作る。

○ 明方の闇を切り裂く二声は恋ひ待ちあしホトトギスなり

○ ホトトギス北を指しゆく休み処を背戸の松原と決めくれ嬉し

② 自分の思いを入れる

○ 郭公まねくか麦のむら尾花

○ 時鳥鯉を染にけりけらし

ホトトギスを思いて一首

○ ホトトギス子育てをする高原は二十キ口余を飛びゆく先ぞ

③ 相手と相手の立場で

○ 鐘つかぬ里は何をか春の暮

○ 鳥さしも竿や捨けんほととぎす

○ 象潟や雨に西施がねぶの花

芭蕉の見た象潟はまだ海の一部分であった。が、今は陸地となり、おくのはそ道、を二週間かけ巡ったときは、青田の広がる陸地であった。

庭の片隅に、ネムの木が芽生えそれが、電線までとどくまでに繁ってしまつた。

今は毎年、淡い紅のネムの花を楽しんでいる。今年も花の見える日がきた。

○ ネムの木に両葉とじるも閉じざるも交ごもありて夕暮れにけり

大自然の多様性、環境の変化を、どう表現するのか、それによつて正しく見ることに、それを作品にどう表現してゆけばよいか。

大きな目標を立てしまったが、今の自分にとっては、達成できない目標ではあるが、遅遅として進まないとは思ふが、日々の努力により、一歩でも近づけるよう、日々努力してゆくつもりである。

今後しばらくを、先人の作品を参考にして努力してゆく。

「氷魚」のことから (234) 岡本八千代

茂吉の「赤光」について、原稿を書こうと思っていたら、新型コロナウイルスの緊急事態が全面解除（5月26日）となった。少しうれしい。まだまだ何が起こるかわからない。

今回も、私は茂吉の「赤光」にこだわった。
茂吉の歌に、

○とほき世のかりようびんがのわたくし児田螺はぬるきみ
づ恋ひにけり

○さんらんと光のなかに木伐りつつにんげんの歌をうたい
けるかも

○ゆふ日遠く金にひかれれば群童は眼つむりて斜面をころが
りにけり

という歌がある。

その中の、「迦陵頻伽」とは、

「極楽浄土にいるという人間の頭をもち、顔は美人のよう
で、声の美しい想像上の鳥」とある。

「赤光」は佛教語からきていらい。

・「赤光」の意味は、「佛説阿弥陀經」の中にあることば。

・「大如車輪」にある。

・「青色青光 黄色黄光
赤色赤光 白色白光」

・「微妙香潔 舍利佛」

・「極楽国土 成就如是 功德莊嚴」

「赤光」は茂吉の第一歌集で、明治38年（1905年）数
え年24歳、作歌を始めた時から32歳までの製作を収めてある

のだから、今にしてまたまた私は驚いている。その驚きは、
かなり若い頃から佛教語を知っていることと、いや宗教心を
持っていることだ。

茂吉の自子の北杜夫はその著「青年茂吉」の中で、父上の
ことをこう書いている。

「茂吉という男は野武士、野蛮人のごとき野太い神経の持
主であるとともに、逆に気弱ではそほとした繊細な感
覚の持主でもあった。」と。そしてまた、

「ときには、獅子のごとく勇猛果敢であったり、矛盾して
いるようでいて、時にはまた、『よにも弱き』男でもあつ
た」と。

上田三四二氏はその本の中で、茂吉のことをこうとりあげ
ている。小学校の卒業の時、

「絵かきにもなろうか、宝泉寺に入って坊主になろうか、
それとも百姓になって山蚕でも飼って静かに暮らすか、
など三通りの道を考えていた。」人だったと。

かくして、茂吉が神童だという声を聞いて養父斎藤紀一に
認められて上京したのであった。一面、彼は神経が細く寝小
便っ子とか。

今、私が持っている「赤光」の歌集の挿画の仏頭図は、木
下太郎の描いたもの。これも佛教に関するものである。

そして、茂吉は歌づくりを「現世出世の道とおもふな」と
か、「作歌は「業余のすざび」と称していた。そして、夜の
ひまひまにランプのもとで「赤光」の歌のひどいのを直した
り、削ったりしたのであった。

茂吉の強いところと弱いところの二面性をつくづくわ
かったような気がする私。

編集室だより【二〇二〇年五月】

今泉 由利

○「自粛」と、家に籠る生活も身につき、このまま永久に続いてゆくような感じがしていたのだけれど、「気を付けて」出掛けても良い、とのこと。

○浜離宮へ、俳句の吟行。徳川將軍家の庭園故、江戸時代が丁寧を守られ、何と美しい。急に解放された目に心に、眩しい。

○捩摺り草の、ピンクだけが咲いている芝。クローバーの白花だけ残されている芝。今はザクロの花の季節だったのだ。松の緑が初々しい。菖蒲、杜若。

○世界の海へ繋ぐ…潮入の池。世界のコロナ事情へ、思いは至る。

○將軍たちが賓客と過した「御茶屋」が園内に四つもあり、「中島の御茶屋」で、抹茶と、あじさいの花姿和菓子をいただいた。

○閉じ籠った、重苦しい日々が長かったから、この吟行の輝やいたこと。身にしてみたこと。続いている新型コロナ騒動を、上手に終りにしてゆきたい。

○家の中で、ラジオ体操をしたり、しっかり現状維持を

していたつもりだったけれど、ずいぶん、バランスが崩れていることを、身にしてみた。

○外国生まれの子供達に、スペイン語、英語、日本語を、しっかり持つて欲して、日本語留学の時、日本の義務教育で学ばせたかった。けれど、「そういう事例は無い」と断われた。日本在のインターナショナルスクールで、日本留学を済ませ、次は、英語の国へと。

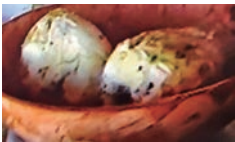
○国と国を隔てる生活を続けてきたから、その時々々の最善を尽して「伝え合ってきた」けれど、今は、何と便利な時代になったことでしょう。NYに住む子供達とオンライン、ミーティングをしている。画面越し、一緒にワインを飲んだり、晩ご飯を作ったり。

○幼かった由野が、「海辺のパンノキの下で、おひるねをしていたら、パンノキの実が落ちてきて・・・」という絵本が大好きで「いいな！子供達が大きくなったら、こんな生活したい！」という私。

大きくなった由野が、「お母さんのあこがれの、パンノキの実を、ジャマイカで見付けたよ」と『パンノキの實の缶詰』をもってきてくれた。

本物のパンノキの下に思いを馳せる。今、地球全体に広がってしまった新型コロナ、どうぞ害を及ぼしませんように。

野菜・果物・まんだら (29) パンノキ (学名 *Artocarpus altilis*)



- クワ科、パンノキ属、常緑高木
- 無核種、タネナシパンノキ、有核種、タネパンノキ。
- 原種は、ニューギニアとマルク諸島。
- フィリピン原産の *Artocarpus camansi*。
- イギリスとフランスの航海士により、ポリネシア原産。無核種が、カリブ海の島々に移入されたのは18世紀後半、栽培する国は、南アジアから東南アジア、大洋州、カリブ海から、中央アメリカに係る90ヶ国ほど。
- ポリネシア原産は、高さ15mほど、葉は大きく7~9裂状。葉がよく茂ることから日陰樹、街路樹。木材として、その軽さと、堅牢さから船舶の用材、家屋の建材。幹にふくまれる樹脂は、船の防水に用いる。
- 一年の特定の時期、収量が多い。枝先に2~3個着生。1シーズンに200個ほどの実をつける。
- 開花後3日間のみ受粉、オオコウモリが媒介する。
- パンノキの実は、水分71%、炭水化物27%、タン白質1%、脂肪は微量、ビタミンA・C、チアン、カリウム…
- 一年の特定の時期の収量が多いため、加工保存。
- 穴を掘って、内壁をパンノキの葉でおおい、皮をむいた実を詰めて、葉をかぶせ、土でおおう。数週間かけて発酵させる。酸味と粘り気のペーストになり1年以上の保存に耐える。
- 実を丸ごと直火で焼いたり、薄く切り、からあげにしても美味しい。
- パンノキの繁殖は、主に種子による。無核種は、根から成長する“ひこばえ”を移植。
- 赤道の低地、塩分を含む土壌を好む。

「三河アララギ」について

◇三河アララギ発行所 〒一四一・〇〇二二

東京都北区王子本町一・二六・六・A

TEL (〇三) 五九二四・二〇六五

◇URL <http://imazumiyuri.jp/>

E-mail yurimazumi@jcom.zaq.ne.jp

◇編集・発行 今泉由利・森岡陽子

◇三河アララギ誌は毎月発行します。

◇会員・今までで会員の方。希望される方。

◇会費制 廃止。

◇新しく購読を希望される方 一ヶ年五千円。

◇振替口座 〇〇八三〇・六・五六二二九

◇原稿送付先 〒一四一・〇〇二二

東京都北区王子本町一・二六・六・A

今泉由利 宛

◇原稿は毎月末日までに郵送下さい。